

# 組織目標評価報告書（平成23年度）

部局名：歯学部

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
<b>①教育領域</b>	
<b>①-1 目標</b>	
<p>1) 診療参加型臨床教育の充実 (背景:全国的に展開する「歯学教育の改善・充実」に対応するため) 達成目標と実習項目を明確化する。臨床教授制度を利用し学外医療機関の拠点形成を推進する。</p> <p>2) 学士力保証と教育の効率化の検証 (背景:大学の組織目標を先行学部として実施するため) アドミッション・ポリシー、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・マップの循環的な相互検証を目指す。</p>	<p>1) 診療参加型臨床教育の充実を図るため、教務委員会、臨床実習実施部会が中心となり、臨床実習における達成目標と実習項目を明確化した。平成23年度学長裁量経費(代表:宮脇卓也)を得て、卒前臨床教育における地域医療を軸としたインターンシップ実習の構築を推進することができた。</p> <p>2) 歯学部ファカルティ・コーディネーターと教務委員会を中心に先行学部として、ディプロマ・ポリシーの策定とカリキュラム・ポリシーを作成した。平成24年度シラバスへのDP関連割合入力についても完了した。また、カリキュラムポリシーについても先行学部として策定している。</p>
<b>①-2 目標とする(重要視する)客観的指標</b>	
<b>②研究領域</b>	
<b>②-1 目標</b>	
<p>1) 歯学教育に関する調査・研究の推進 (背景:教育の効率化と平成24年度歯科医学教育学会を開催するため) 国内外の歯学教育事情を調査する。岡山大学歯学部における教育・研究・臨床活動の実状を分析し、学会発表や教育論文として公表する。</p> <p>2) その他の研究活動は、研究科(歯学系)に準ずる。</p>	<p>1) 歯学教育に関する調査・研究の推進を図るため、第5回医療コミュニケーション、ファシリテーター養成セミナー(主催:日本歯科医学教育学会)、第2回歯科医学教育者のためのワークショップ(主催:日本歯科医学教育学会)、診療参加型臨床実習カリキュラム立案・実施のためのワークショップに教務委員会より教員を派遣し、国内外の歯学教育事情を調査した。また平成24年度の日本歯科医学教育学会を岡山大学歯学部で開催することとし、文部科学省医学教育課長に出席していただき、地域医療教育の効率化を検討する準備を整えた。</p>
<b>②-2 目標とする(重要視する)客観的指標</b>	
<b>③社会貢献(診療を含む)領域</b>	
<b>③-1 目標</b>	
<p>1) 戦略的な広報活動の推進 (背景:大学の組織目標に合わせ社会への情報発信を強化するため) ホームページの改訂を行う。岡山歯学会と歯学部同窓会を中心に、社会(卒業生や医療関係者等)と広く意見交換するとともに情報を発信し、相互に協力する体制を目指す。</p> <p>2) 地域保健活動の推進 (背景:予防医学の立場から地域保健活動が求められているため) 保健所等の地域行政機関と協力して、情報収集、情報提供を通して地域住民に貢献する。</p> <p>3) 地域医療については、大学病院に準ずる。</p>	<p>1) 広報専門委員会を組織し、岡山歯学会、歯学部同窓会とともに情報交換を行い、歯学部のホームページをポータルサイトとした広報活動を積極的に行った。また本年度の岡山歯学会では、学内外の会員による一般講演に加え、歯科衛生士や歯科技工士向けの臨床セッションを開催し、広く意見交換を行なった。なお各種公開講座等は、病院と研究科とも連携して行なっており、研究科の社会貢献に記載している。</p> <p>2) 地域保健活動の推進 岡山県が策定する「岡山県歯科保健推進計画」に関して、協議会委員、計画策定部会委員として計画・立案に参画した。</p>
<b>③-2 目標とする(重要視する)客観的指標</b>	
<b>【総括記述欄】</b>	
<p>「③社会貢献(診療を含む)領域」については、学部、病院、研究科が関連し、複数の委員会等の調整が必要であった。組織の構成上、改善できない点もあるが、今後は連絡を密にするため、歯学部執行部懇談会を中心に活動していきたい。</p>	